# 中級後半日本語クラスにおける「反転授業」実践の試み

宮内　俊慈

**要旨**

関西外国語大学留学生別科（以後、本学別科）は、2020 年の春学期の途中から、新型コロナウィルス感染拡大の影響により急遽リモートクラス(1)へと切替えられた。日本語中級後半クラスである日本語総合クラスレベル 6（以後、JPN6）では、リモートクラスへの移行に合わせて文法解説の YouTube ビデオクリップを作成した上で 2020 年秋学期より「反転授業」を実施してきた。2022 年秋学期からは留学生がキャンパスに復帰し対面授業が再開された。JPN6 のクラスでは、リモートクラスで実施してきた「反転授業」を対面授業でも取り入れ、より習熟度の高い授業を目指すことにした。本稿では、対面授業時における「反転授業」の成果と課題について報告したい。

【キーワード】　対面授業、反転授業、リモートクラス

## 1. はじめに

本学別科では、2020 年春学期も通常通り対面式でクラスが始まったが、新型コロナウィルス拡大の影響で春休み明けから全面リモートクラスに移行した。留学生の半数は帰国したがその多くが履修を継続し、日本に残った学生もリモートクラスを取り、大半の学生が日本語クラスを修了する結果となった。そして、同年の秋学期から通期でリモートでのオンライン授業を実施することが決定され、それ以降、2022 年の春学期までオンライン授業を継続してきた。

そうした中、各日本語クラスは対面授業時のシラバスの変更が余儀なくされたが JPN6 では、「反転授業」形式で授業をすることとした。

「反転授業」（Flipped Classroom）とは、Johnathan Bergmann と Aaron Sams (2012)が中等教育において自身の講義を録画し、それを生徒に授業前の予習として視聴させ、

授業では課題の質疑応答や理解度チェックなどの活動を行うクラスを「反転授業（Flipped Classroom）」と呼んだことから本格的に注目されるようになった授業形態である。彼らは、「反転授業（Flipped Classroom）」の基本的な概念を「Basically the concept of a flipped class is this: that which is traditionally done in class is now done at home, and that which is traditionally done as homework is now completed in class.」（Bergmann & Sams 2012）と述べている。つまり、従来のクラスでは授業でやってきたことを宿題として行い、逆に宿題としてやってきたことを授業でやるということである。「反転授業」は日本語教育での実践例は多くはないが、日本でも初等教育から高等教育にいたるまで、様々な分野で「アクティブ・ラーニング」の一手法として注目されている（古川・手塚 2016；岩崎・大橋 2018；水谷・高井 2015）。

JPN6 では、2020 年秋学期よりオンラインリモートクラスで「反転授業」形式で授業を行ってきたが、2022 年の秋学期に対面授業に復帰した後も「反転授業」を継続して行うことにした。本稿では、当学期に実施した「反転授業」の実践方法とその効果、および課題についての報告を行う。

## 2. 対面授業復帰後の日本語中級後半クラス（JPN6）の概要

JPN6 の 2022 年秋学期のクラスは、2 セクションあり、セクション A が 12 名、セクション B が 14 名で合計で 26 名であった。

このクラスでは、シラバスに図 1 のような 5 つの目標を挙げて活動を行っている。また、教科書は市販教材ではなく本校教員により作成された独自教材としてのモジュール型のパケット（髙屋敷 2012）をユニット毎に配布し、使用している。

**◆目標：**

1. **上級レベル（日本語能力試験 N1）に行くために中級後期（日本語能力試験 N2）のアカデミックな文型(sentence pattern)・語彙(vocabulary)を学ぶ。また、読める漢字も増やしていく。**
2. **ディスカッションや発表で、日本語で意見を言ったり、説明したりできるようになる。**
3. **ニュースやテレビ番組、映画で使われる自然な日本語を理解し、いろいろな話題について議論できるようになる。**
4. **表やグラフを見ながら、説明したり発表したりできるようになる。**
5. **日本語だけで言い換えたり、考えたりできるようになる。**

図 1　JPN6 のシラバスの抜粋

## 3. JPN6 クラスの通常時の活動内容とリモートクラス時の対応

JPN6 クラスにおいてコロナ禍以前の対面式授業時に行っていた活動内容を以下のの 9 項目に分けて、それぞれの活動のリモートクラス時の対応と今回の 2022 年秋学期の対面授業時の形態をまとめたものが表 1 である。

表 1　リモートクラス時と 2022 年秋学期のクラス形態の対応

| 活動内容 | リモートクラス時の形態 | 2022 年秋学期のクラス形態 |
|---|---|---|
| (1) 文型解説と課題 | YouTube クリップのオンデマンド視聴と課題の提出 | （左記に同じ） |
| (2) 会話練習 | Zoom の Breakout session を使ってのペアー（グループ）ワークで課題の確認 | 教室でのペアー（グループ）ワークで課題の確認 |
| (3) ディスカッション | Zoom meeting で 1 人でディスカッションリーダーとなり、短いリサーチの発表とディスカッション | ペアーでディスカッションリーダーとなり、短いリサーチの発表とディスカッション |
| (4) 単語練習 | 課題として Blackboard へアップロード | （左記に同じ） |
| (5) プロジェクトワーク | Zoom meeting に参加した日本人学生にインタビューをして、その結果を発表する | ボランティアとして教室に来た日本人学生にインタビューをして、その結果を発表する |
| (6) スキット | 中止 | （左記に同じ） |
| (7) 単語クイズ | 課題として Quizlet の自己テストのアップロード | Quizlet のテストを印刷したものを教室で実施 |
| (8) ユニットテスト | ClassMarker を利用したオンラインテストを実施 | 教室での通常のペーパーテスト（4 回実施） |
| (9) 中間試験・期末試験 | ClassMarker を利用したオンラインテストを実施 | 中間試験は、通常のペーパーテスト実施。期末試験はコロナウィルス感染の拡大により、オンラインテストに切り替え実施 |

「反転授業」化するための最大の特徴は、(1)において、日本語能力試験 N2 レベル

の文型解説を YouTube ビデオにし、授業参加前に視聴の上、課題をやってくるようにしたことである。教科書である JPN6 のパケットには、文型解説のページがあり、1 つのユニットに対して大体 6〜7 のターゲットの表現がある。その内の 2〜3 の表現を 1 回 90 分の授業で練習していく。コロナ禍以前の対面授業時にはクラス内で文型の説明を行っていたが、それを YouTube ビデオとして作成し、オンデマンドで視聴できるように本校で使用している LMS（Learning Management System）である Blackboard にアップロードを行った。JPN6 のパケットにはまた、会話練習のページがあり（図 2 参照）、学生が、これらの会話の起こる場面やコンテクストを考えながら、ターゲットとなる表現を使った会話文を作るという課題となっている。学生は、その会話を完成させてパケットに書き込み（あるいは、ノートに書き）、それを Adobe Scan などのスキャナーアプリを使用してスキャンし Blackboard にアップロードするという課題が課される。これらの活動は、授業に参加する前にやってくることとなっている。

1. A: 新しいドーナツ屋、どうだった？
   B: うん、＿＿＿＿＿＿とおり、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿よ。
   as we heard

2. A: 沖縄(おきなわ)に行ったそうですね。どうでしたか。
   B: ええ、＿＿＿＿＿＿＿＿とおり、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿！
   (just) as I expected (expect: 予想(よそう)する)

3. A: すみません、このコピー機(き)、初めて、使うんですけど・・・。
   B: じゃあ、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿とおりに、
   ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

4 A: ＿＿＿＿＿さんの新しい恋人(こいびと)、どんな人でしたか？
   B: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

5. あなたの意見を教えてください。
   Q: 大阪／関西外大／YUI／ホストファミリーは、どうだった？
   A: ＿＿＿＿＿＿＿とおり、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

図 2　JPN6 のパケットの会話練習課題の例

授業時には、そのやってきた課題に基づきペア、もしくは 3 人で会話練習を行い、

その後にクラス全体で発表するという形態で進行する。教師は、ペアワーク時、および発表時に会話の想定場面が適切に理解されているか、文法的誤りを犯していないかなどの観点から、個人、または、クラス全員に指導を行う。コロナ禍以前の対面授業時には、この文型解説と会話練習を全て授業の中で行っていた。

また、(3)は、学生主導のディスカッションである。JPN6 のパケットは、ユニット毎にトピックがあり、各ユニットの授業の最終日に学生二人がリーダーとなってディスカッションを行っている。クラスの人数によっては、リーダーが一人の場合もある。二人がリーダーになる場合、リモートクラスの時は、遠隔地同士のリーダーが協働してプレゼンテーション資料（パワーポイント：以降 PPT）を作成する必要があったが、今学期は、教室外活動として協働して作成した。

(4)の単語練習は、パケットにある単語練習の課題の答えを会話練習の課題と同様にスキャンアプリでスキャンして Blackboard へアップロードする課題である。学生は会話文の中でどういう言葉を使うべきなのかをコンテクストを理解した上でないと正解に至らないという形の練習になっている。また、動詞などでは活用形の変化も考慮しなければならない。宿題であると同時に、授業中も発表して正誤の確認を行う。

II.　下の言葉を使って、次の会話を完成させなさい。必要なら形を変えなさい。

| | | |
|---|---|---|
| （～に）進出する | 流行に敏感（な） | （～に）向く |
| 認知する | 逆に | 本格的 |

1. A:　回転寿司のお店は、米国にもたくさんあるよね。
   B:　うん、米国の市場によく（　　）いるよね。
2. A:　日本の首相（prime minister）って、安倍晋三だったよね？
   B:　うん。でも、アメリカの大統領に比べて、
   世界的にそんなに（　　）いないね。
3. A:　大阪に来て、もうお好み焼き、食べた?
   B:　うん、もちろん。大阪の（　　）お好み焼きは最高だと思うよ。
4. A:　B さんの妹って、いつも新しい服を着ているし、とてもおしゃれだよね。
   B:　うん、うちの妹は新しい物を買うのが大好きで、（　　）んだよ。

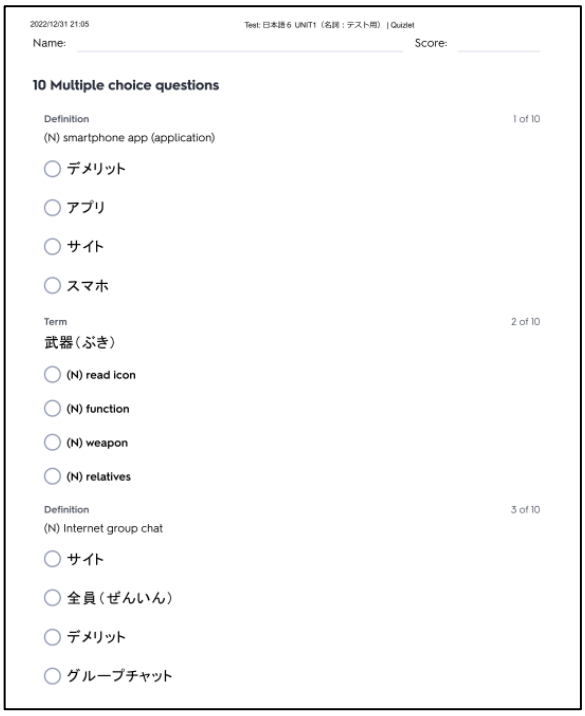
図 3　JPN6 のパケットの単語練習課題の例

(5)のプロジェクトワークは、学生たちが自分で選択したトピックでアンケートを

作成し、日本人学生にそのアンケートを使ってインタビューした後に、そのアンケート結果をグラフにして PPT を使って発表する活動である。この活動については、コロナ禍以前の対面授業時は、授業時間外で本校日本人学生にインタビューするように指示したが、今学期はまだコロナ禍が完全に終焉したわけではないので、リモートクラス時と同様にクラスに日本人学生を招待し、その学生たちにインタビューさせることとした。

(6)のスキットは、リモートクラス時に遠隔地同士の学生がスクリプトを協働して作成することの困難さや Zoom クラスで一緒に演技することの困難さを考慮し、中止することとした。対面授業に復帰した後も、スケジュールの関係から同じくこのスキットの活動は実施しないことにした。

(7)の単語クイズについては、リモートクラス時には Quizlet という Flashcard アプリにあるテスト機能を使って自動生成された単語テストの結果をレポートとして提出させた。授業時間中にテストの生成と結果のレポートをアップロードさせるようにした。対面授業に復帰した後は、自動生成された単語テストを印刷し、それをクラスでやらせるようにした。


2022/12/31 21:05 Test: 日本語6 UNIT1（名詞：テスト用）| Quizlet

Name: Score:

10 Multiple choice questions

Definition 1 of 10
(N) smartphone app (application)
- デメリット
- アプリ
- サイト
- スマホ

Term 2 of 10
武器（ぶき）
- (N) read icon
- (N) function
- (N) weapon
- (N) relatives

Definition 3 of 10
(N) Internet group chat
- サイト
- 全員（ぜんいん）
- デメリット
- グループチャット

図 4　自動生成された Quizlet の単語テストの例

(8)のユニットテスト、(9)の中間試験と期末試験は、リモートクラス時は、ClassMarker というウェブベースのクイズ作成システムを使ってオンラインテストを実施した。テストは、モバイル端末（ほとんどの場合、スマートフォン）と PC の二つを使用し、モバイル端末側で PC をモニターしながら受験させるようにし、カンニングを避けるように配慮した。対面授業に復帰した後は、教室でのペーパーテストに戻ったが、期末試験のみは、コロナ感染が再度拡大してきたことから、再度オンラインテストを実施した。

## 4. 「反転授業」実施の効果

「反転授業」の事例は、アメリカが先行しているが、日本においても様々な研究事例が報告されており（重田 2014）、その効果についても第一に「生徒の学習時間を実質的に増加させる」、第二に「学んだ知識を使う機会を増やす」、第三に「学習進度を早めることも可能」などとされている。

これらの効果についての状況は、前回のリモートクラス時の「反転授業」の報告（宮内 2021）と同様であるので、ここに転載しておきたい。

> 「第一の点に関しては、JPN6 のコースでも全く同様の状況であった。これまでの対面授業時には、文型説明は全て教室内で行っていた。従って、学生は、教室に来て初めてターゲットの表現を見聞きし、説明を受け、その後やっと練習に入るといった形になる。しかし、「反転授業」の形態にしてからは、事前に文型説明のビデオを視聴し（1 つの表現につき 10 分程度）、課題の説明のビデオを見て（1 つの課題につき 5 分程度）、その後、その表現に関する課題をしなくてはならない（人によって必要な時間は異なるが、長くても 1 つの表現につき 15 分程度）。つまり、一回 90 分の授業に参加する前に、1 つの新規表現につき 30 分程度の予習が必須となる。一回の授業で 2～3 の新規表現を取り上げているので、1 時間から 1 時間半の予備学習をしてから、授業に臨むことになる。もちろん、こうした事前準備をせずに授業に参加してくる学生もいるが、やってこなければクラスメートとのペアワークでスムーズに活動ができない、発表するときに積極的に発言ができず、発表者に付与される performance points がもらえない、などのプレッシャーがあるので、現在までのところ 8 割から 9 割程度は宿題をやってきて

いる。

第二の点についても、いままで説明に使っていた一方的に聞いている時間を会話練習に回しているため、新規の表現を使う機会を増やすことにつながっていると言えるだろう。

第三の点に関しては、JPN6 では対面授業時より進度を早めるという操作はしていないが、説明をクラスでやっていた時には、質問や解説に予定以上の時間を使ってしまい、練習の時間を充分確保することが困難な場合があった。しかし、「反転授業」形式にしてからは、授業をほぼプラン通りに進められるようになり、学習進度に遅れを出さないようになった。」

今回は、新たにコロナ禍以前の対面授業時の中間試験の筆記試験の成績と 2022 年秋学期の中間試験の筆記試験の成績を比較してみた。本来であれば、期末試験の成績を比較するところであるが、2022 年秋学期の期末試験はコロナウィルス再拡大の怖れが出てきたため、急遽オンラインテストに切り替えられた。したがって、テスト形式が大幅に相違するため、その平均点を比較するのは妥当ではないと判断し、中間試験を採用した。2019 年と 2022 年の中間試験は、どちらも Unit 1 から Unit 4 までの範囲をカバーしており、Unit 3 以外のユニットについては、トピックに関しても同一であった。問題形式、採点方法などに関しても同一採点者でほとんど変わりはなかった。もちろん、2019 年の学生と 2022 年の学生が等質であるということは仮定できないが、それでも、平均点に有意な差が認められれば、「反転授業」に効果があったということをある程度は主張できるものと思われる。実際の結果は表 2 の通りである。

表 2　2019 年秋学期と 2022 年秋学期の中間試験の平均点の比較

| | 平均点 | 受験者数 | 標準偏差 |
|---|---|---|---|
| 2019 年秋学期 | 61.1/70 | 20 | 6.32 |
| 2022 年秋学期 | 61.0/70 | 26 | 5.83 |

この表を見ると、統計的検定をするまでもなく、2 つの 70 点満点の平均点にほとんど差のないことが見て取れる。このことから、少なくとも学期の途中では「反転授業」によって大きな学習効果が出ると主張をすることは難しいと言えよう。

## 5. 「反転授業」に対する評価

「反転授業」についての評価は、2022 年春学期のリモートクラス時と今回の 2022 年の秋学期の対面授業時に学生へのアンケートを実施した。ここにその結果を示す。

### 5.1 2022 年春学期と 2022 年秋学期の「反転授業」に対するアンケート調査

アンケート調査は、学期終了直前に Google Forms を利用して行った。2022 年春学期の JPN6 のオンラインクラスの学生は全部で 20 名おり、その内 19 名がアンケートに回答した。2022 年の秋学期の対面授業時の学生は、全部で 26 名おり、その 23 名がアンケートに回答した。

#### 5.1.1 「反転授業」と「従来方式」とどちらがいいか

図 5 と図 6 は、「反転授業」と traditional method（ここでの“traditional method”とは、文型説明をクラス内で行う授業という意味である）のどちらがいいか、に対する応答のグラフである。図 5 が 2022 年春学期のリモートクラス時であり、図 6 が秋学期の対面授業時である。春学期は「反転授業」がいいという学生と traditional method がいいという学生の比率は、3:4 で秋学期は、2:1 であった。秋学期は「反転授業」の方を好む学生が多かったが、合計で言うと、どちらかが圧倒的に好ましいという結果にはならなかった。これは、後ほど説明するが、「反転授業」方式の授業を効果的にするためには、課題が通常授業よりも多くなる。したがって、学生にとっては決して「楽な」授業方式ではないことと関係していると思われる。熱心な学生にとっては「苦痛」ではなくても、ただ「単位」が取りたいといった学生にとっては、好ましいものではないであろう。また、リモートクラスの場合は、自国で授業を受けていることから、現地の所属大学の授業があったり、アルバイトがあったり、という理由から日本語の勉強だけに時間をかけるわけにはいかない、といったような事情もあるため、特にリモートクラス時の「反転授業」に対する preference が減少したものと思われる。事実、以下のようなコメントが 2022 年春学期のアンケートでは見られた。

> 「私は二つの関西外大の授業を取りながら、自分の大学で三つも授業を取っていたから、『少し多すぎる』という答えを選びました。

「どちらがいいか」という質問に対して、その理由も聞いたが、「反転授業」の方

がいいとする学生の理由は、「自分のペースで説明を見ることができる」ということに集約できそうである。理由を述べたコメントの例を見てみよう。

「反転学習では自分でいつ説明見るかを決められるので楽です。」

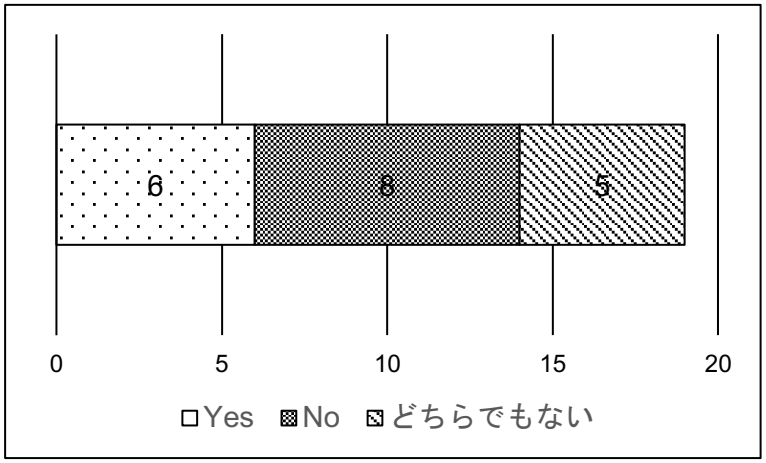



図 5「反転授業」と traditional method とどちらがいいか（リモートクラス時）

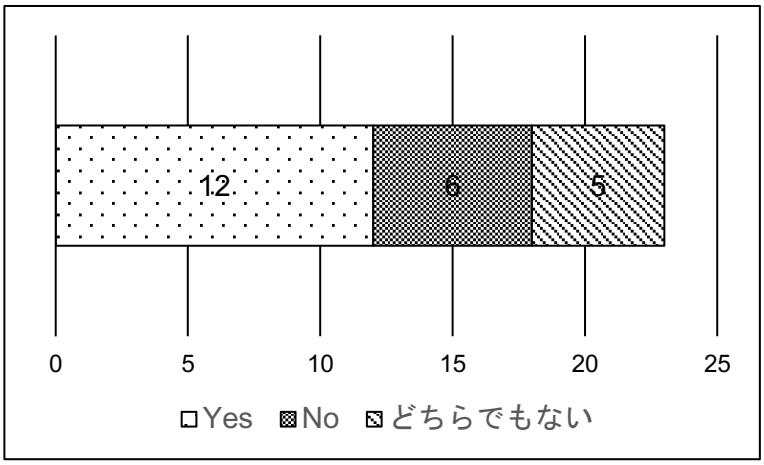



図 6 「反転授業」と traditional method とどちらがいいか（対面授業時）

一方、「traditional method」の方がいいとする学生の理由は、「疑問・質問があったときに、すぐに聞くことができる」ということに集約できそうである。同じく理由を述べたコメントの例を見てみよう。

「Traditional method allows me to ask questions directly to the teacher if the explanation is confusing, which will help with doing homework after.」

確かにもっともな理由にも聞こえるが、実際にクラスで説明をしている時にそれほど多くの質問がでるわけでもないし、ビデオで説明を見ているときに疑問点があれば、レッスンの時に質問をすればいいわけで、授業でもその時間を取っている。要するに勉強にあまり時間をかけたくないと主張しているようにも思える。

### 5.1.2 「課題の量」について

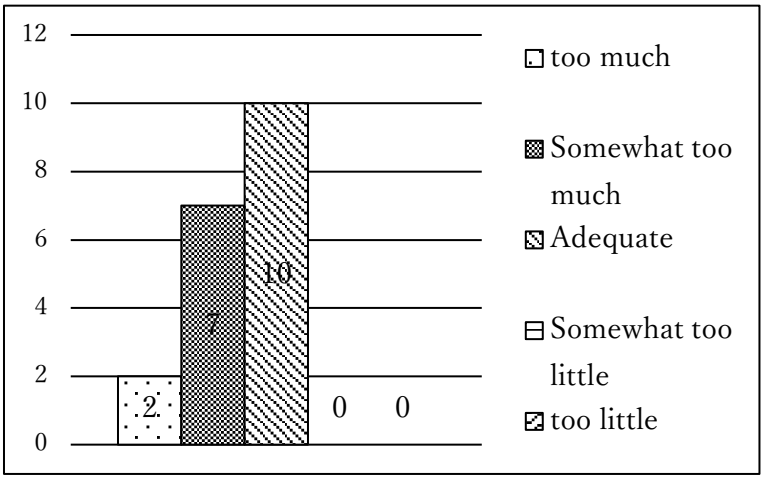



図 7 「課題の量」について（リモートクラス時 : 2022 春学期）

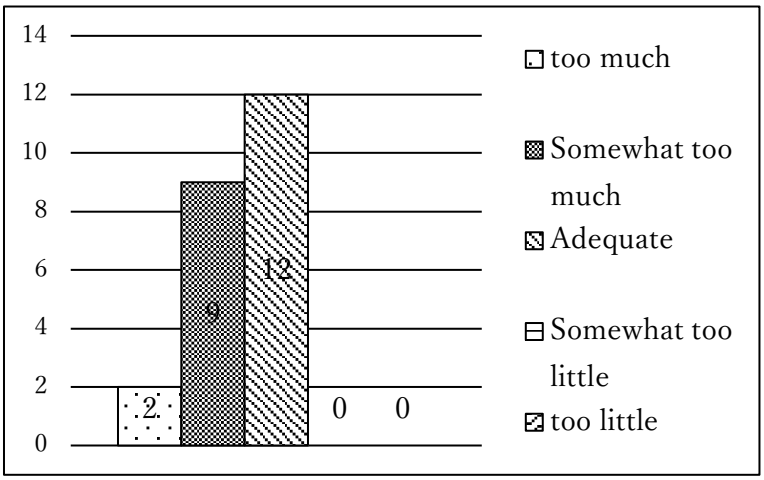



図 8 「課題の量」について（対面授業時 : 2022 秋学期）

「反転授業」形式においては、「課題」を出さずに「動画視聴」のみを与えるとい

う方法では、「動画視聴率」が低下し、結果として「学習成果」が上がらないということが報告されている（古川・手塚 2016）。したがって、本校の JPN6 においても、事前の「課題」を課しているが、その「課題の量」について聞いた結果が図 7 と図 8 である。

“Adequate”と考えている学生が両学期とも半数以上であるが、同数程度に「多い」と感じている学生が存在する。確かに、コロナ禍以前の対面授業時の宿題の量に比べるとそれまで授業時間内にやっていた課題を事前学習としているため、ユニット単位で言うとその時の 3 倍程度の量になっているので、かなり増加していることは間違いない。「課題」が多すぎるという不満に対しては、事前課題はビデオを視聴すれば簡単に答えられるような易しい課題に変更し、現在実施している課題をコロナ禍以前の対面授業時に実施していたように授業内で実施するといった形式にすれば解消される可能性があると考えている。

### 5.1.3 「反転授業」の満足度

次に、「反転授業」に対する満足度を尋ねた結果が、図 9 と図 10 である。リモートクラスの春学期（20 名中 9 名）も対面授業の秋学期（23 名中 11 名）も約半数の学生が“very satisfied”以上の評価であった。また、 “not at all satisfied”の学生は、春学期がゼロで、秋学期が 1 名のみであった。改善の余地はあるものの、ある程度の満足度は得られていると考えてよいであろう。

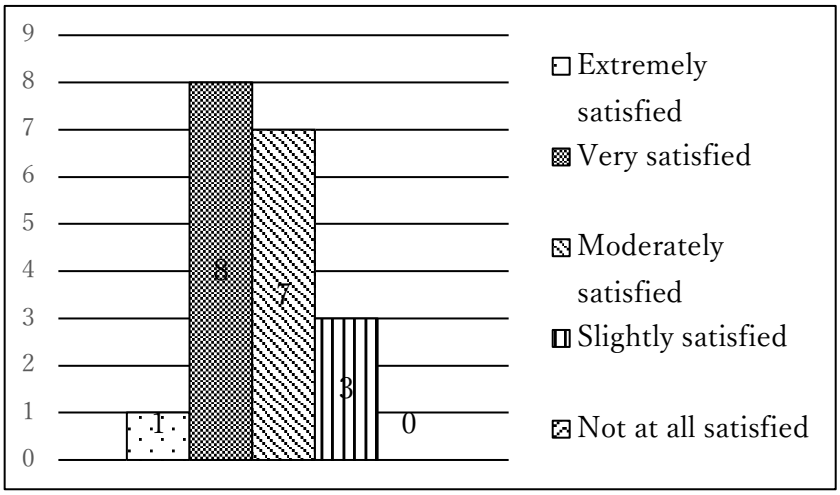



図 9 「反転授業」の満足度（リモートクラス時 : 2022 春学期）

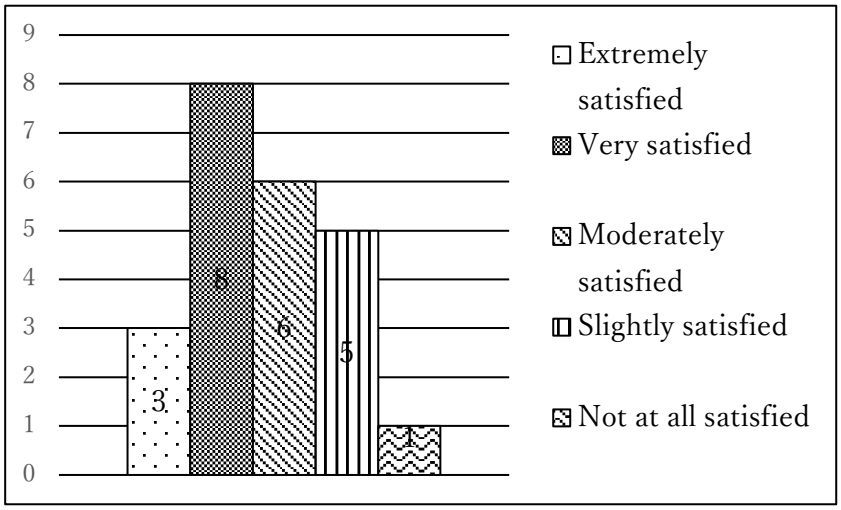



図 10 「反転授業」の満足度（対面授業時：2022 秋学期）

### 5.1.4 日本語の上達度と「反転授業」の効果

さらに、「反転授業」形式の授業によって、自分の日本語力がどれほど改善したか（図 11 と図 12）と「反転授業」形式の「method の効果」（図 13 と図 14）についても尋ねた。

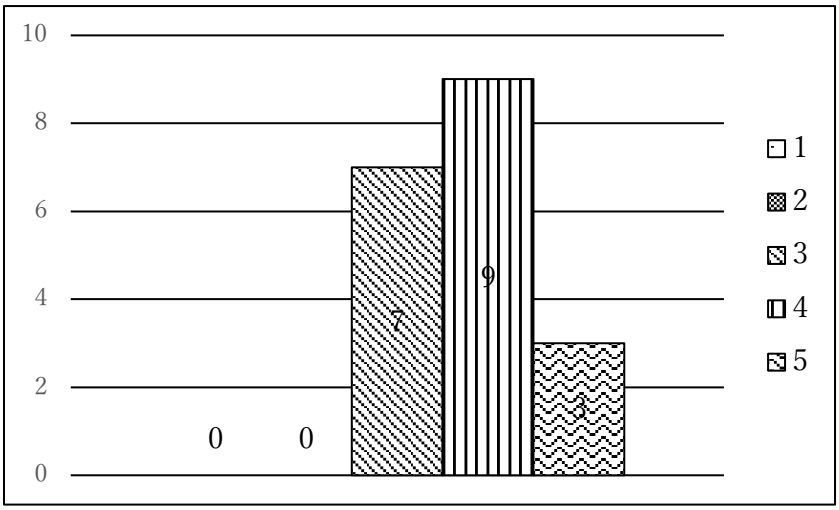



図 11 「反転授業」による日本語の上達度（リモートクラス時 : 2022 春学期）

まず、上達度の方を見ると、春学期（20 名中 12 名）も秋学期（23 名中 12 名）も半数以上の学生が 5 段階の内の 4 以上の評定をしている。また、5 段階中 2 以下の評

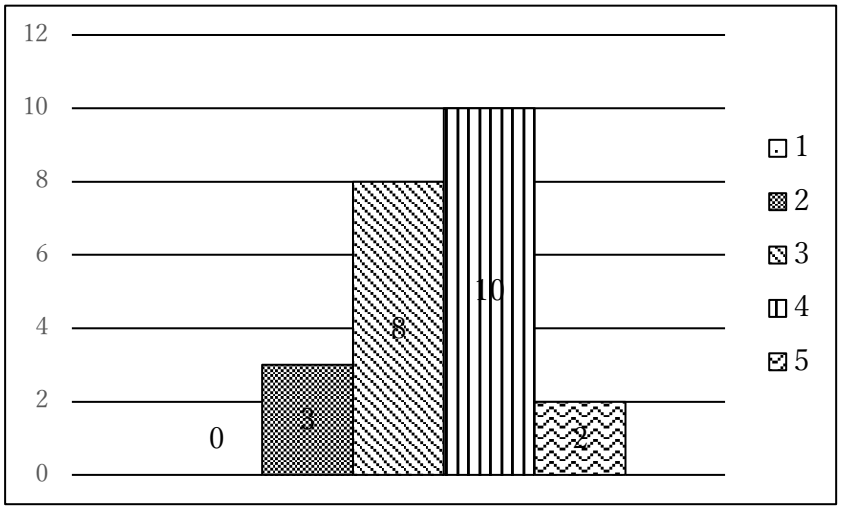


図 12 「反転授業」による日本語の上達度（対面授業時：2022 秋学期）

定をしている学生は、秋学期の 3 名のみである。「反転授業」形式が、日本語力の改善に役立っているとの実感はある程度認めているということであろう。

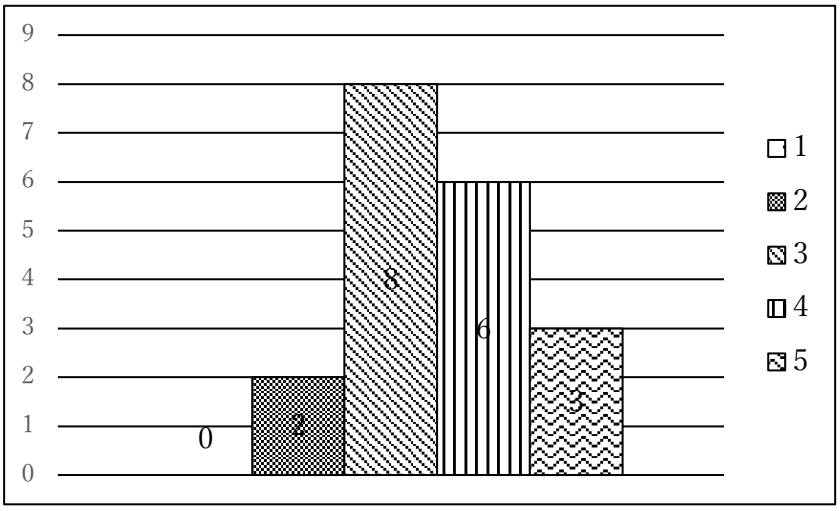


図 13 「反転授業」の効果（リモートクラス時 : 2022 春学期））

「反転授業」の効果についての評定は、上達度の評定よりは少し低いものの、同様の傾向が見られた。もちろん、この 2 つはリンクしているものなのでこの結果は頷けるものだが、「反転授業」の学習効果も学生にある程度認められていると考えてよいようである。

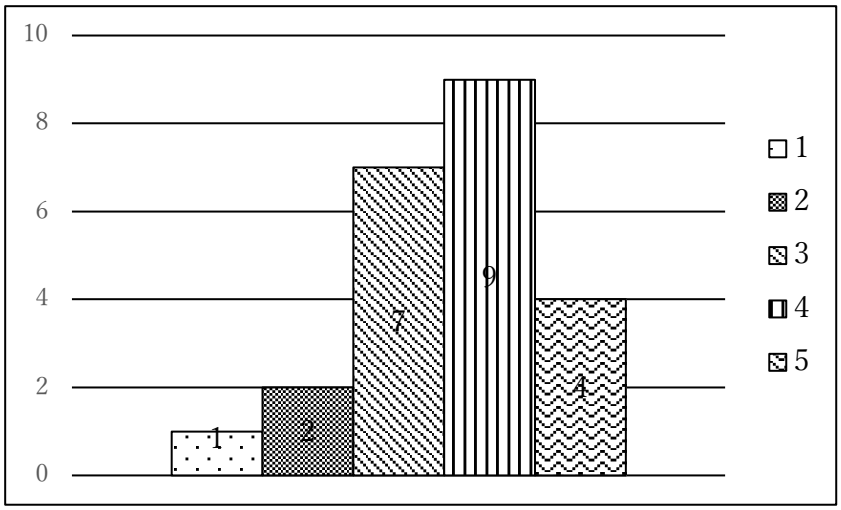


図 14 「反転授業」の効果（対面授業時：2022 秋学期）

## 6. 「反転授業」の課題と対策

前回の報告（宮内 2021）でも言及したが、「反転授業」にも、様々な課題が存在する。前回引用した初級日本語授業における反転授業の実験授業の結果報告（鈴木 2018）のデメリットを再度引用する。

① 予習時間が長くなると学習者に負担を与える
② 予習に教師がいないことを不安に感じる学習者の存在
③ 事前学習ビデオに媒介語がなければ初級学習者の理解は困難を伴う
④ 反転授業における評価方法が確立されていなければ学習者の不満を引き起こす
⑤ 反転授業になじまない学習スタイルを持つ学習者の存在

①に関して、春学期のリモートクラスについては「学生たちの自国からのアクセスになっている。したがって、アルバイト、パートタイムの仕事を学業と平行してやっていたり、自国の大学のコースワークがあったりして予習時間が充分に確保できないというような問題が発生している。中には、当コースが大変すぎて途中でコース修了を断念する学生も何人かいた」（宮内 2021）と報告した。今回は、学生が日本に来ているため同様の問題は発生しなかったが、それでも他の科目のコースワークがあることで予習時間の確保が難しいという学生もいた。この点に関しては、「課題の量」の項目で述べたように、「事前課題」の内容を簡単なものに入れ替え負担を軽減するこ

とで解消できるのではないかと考えている。

さらに、⑤の「『反転授業』になじまない学習スタイルを持つ学習者」についてであるが、「『反転授業』形式と『traditional method』のどちらがいいか」の項で挙げたように、「説明を聞いたときに出てくる質問」への対処が主な課題のように思える。この点については、ビデオ視聴の確認と見たときに抱いた質問をその場で書き込めるLMS（本学ではBlackboard）上のアンケートを作成することである程度の不満解消ができるのではないかと考えている。

## 7. まとめと今後の課題

前回の報告（宮内2021）では、「授業を『反転授業』形式に変更したことにより実質的に学習時間が増加したことで教育効果は確実に上がっているということが言えよう」と述べたが、その時点では、「反転授業」についての直接的評価を実施していなかったため、「授業形式に関しての学生の明確な評価は不明である」としていた。今回の調査で、中間試験の成績の比較が可能となり、成績上の差異が見られないことが明らかとなった。また、学生のアンケートに対するコメントから、いくつかの課題も明らかとなった。成績の比較に関しては、「反転授業」形式がよりよく反映される学期最終テストである期末試験の比較ができなかったということも「反転授業」形式には不利に働いた点もあるが、いずれにしろいくつかの改善を実施する必要がありそうである。

まだ、コロナウィルスの脅威が完全に払拭されたわけではないので、確実なことは言えないが、今後も対面授業が実施できる環境であれば、今回明らかとなった改善点を修正した上で再度「反転授業」の効果について調査・報告したいと思う。

## 注

(1) 「リモート（授業）」と「オンライン（授業）」は、厳密には異なる。「リモート（授業）」とは、遠隔地で授業を行うことであり、「オンライン（授業）」とは、ネットワークを利用してPCを使ってリアルタイムで授業を行うことである。従って、「リモート（授業）」は、必然的に「オンライン（授業）」となるが、「オンライン（授業）」は、必ずしも「リモート（授業）」とは限らない。同じ教室内でPCを使っていれば、「オンライン（授業）」だが「リモート（授業）」とは呼べない。本稿では、「リモート（授業）」というのは、日本国外の学生に対して日本から授業を行うという意味であり、「オンライン（授業）」というのは、

「対面授業（教室内での授業）」ではなく PC を通しての授業であるという意味である。

## 参考文献

岩崎公弥子・大橋陽（2018）「反転授業を活用した授業実践とその効果」『金城学院大学人文・社会科学研究所紀要』 22 号, 1-15.

重田勝介（2014）「反転授業 ICT による教育改革の進展」情報管理 56(10) , 677-684.

鈴木靖代（2018）「オープン教材を活用した初級日本語授業における反転授業実践」『一橋大学国際教育センター　紀要』 9 号, 59-71.

髙屋敷真人（2012）「モジュール型教材による中級後期日本語開発プロジェクト」『関西外国語大学留学生別科　日本語教育論集』22 号, 119-133.

古川智樹・手塚まゆ子（2016）「日本語教育における反転授業実践―上級学習者対象の文法教育において―」『日本語教育』164, 日本語教育学会, 126-141.

水谷晃三・高井久美子（2015）「プログラミング初学者を対象 にした動画教材による反転授業の実践と評価」情報処理学会研究報告 Vol.2015-CLE-17, No.34, 1-8.

宮内俊慈（2021）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（４）」『関西外国語大学留学生別科　日本語教育論集』31 号, 21-34.

Bergmann, J. & Sams, A. (2012) *Flip your classroom: Reach every student in every class every day*, International Society for Technology in Education, 40-47.

(smiyauc@kansaigaidai.ac.jp)